



複合カフェでインターネットを気軽に利用する中高年層が増えている(埼玉県吹上町の「コミックバスターワールドの風吹上店」)

漫画・雑誌、インターネット環境、無料の飲料——。この三点セットを時間制課金で提供する複合カフェ。ネットゲームやダーツのほかエステなどのサービス、ファミリーストラン代わりにもなる食事を提供する店も登場。単なる暇つぶしの場から総合娯楽施設へと進化している。利用者も主要層の二十〜三十代男性から高齢者や女性、家族に広がってきた。

「今日の運勢でも占ってみようかな」と慣れない手つきでマウスを動かす、初めてのインターネットに挑戦する六十代の主婦。家事の合間に、友人に誘われてやってきたという。「ビリヤードは二回目」と話す、地元の子供中学生四人組は部活帰り。漫画を書棚から二十冊ほど取り出し、肩を並べて一心不乱に読みふけるのは中年男性と小学

遊び色々 複合カフェ進化

生の男の子の親子だ。埼玉県の郊外ロードサイドに一カ月前に開店した複合カフェ「コミック

バスターワールドの風吹上店」。土曜の午後ともなると若者男女が集い、めいめいの遊びを楽しむ。高性能パソコンとひじ掛けいすのある二平方メートルのブース席のほか、ビリヤード台やダーツコーナーなどグループで楽しめる遊技設備が並ぶ。運営するのはアクロス(大阪府吹田市、原田健一社長)。フランチャイズチェーン(F.C.)方式で地方都市へ進出している。書店や食品スーパー、

防犯・防災面の対応急ぐ

複合カフェの原型は一九七〇年代に流行した、漫画が読める喫茶店。九〇年代後半に時間制喫茶店やインターネットを利用できるネットカフェと融合して現在の業態になった。現在は都市部を中心に二、五百店舗あり、市場規模は約千五百億円。業界団体では、今後十年間で二・五倍程度の成長を見込む。複合カフェの出店や新規参入が急速に広がる要

ビリヤードや映画観賞「暮会所」にも

高齢者・家族連れも利用

衣料品専門店、パチンコ店などの跡地に立地。平均店舗面積は二百〜五百平方メートル。各地域の特性に合ったコミュニケーションの場づくり(原田社長)を目指す。思わぬ利用法も目立つ。福岡県桂川町の店舗

は現代の暮会所の様相を呈している。平日の午前中から午後三時、六十一〜七十歳の男性客が十人程度、パソコンの前に座る。目当ては囲碁や将棋、マージャンなどの対戦ゲーム。コミックで広がり、仲間を誘い合っている。家族連れに人気だ。週末の夕方には親子連れがハンバーグやソフトクリームをほお張りながら、大型画面で映画観賞する。常連からの要望に感じ、ハンバーグに加えてオムライスや焼きそばなどの食事メニュー、デザートなど、常時三十一〜四十品を用意している。ファミリーストランの代わりにもなる。「パソコンを持ち歩かなくなった」と話すのは東京都中央区の食品メー

「アプレシオ(東京・新宿、馬場正信社長)は初めて大型ショッピングセンター(SC)内に出店した。SCの所在地は千葉市中央区。夕日に映える千葉港を望む「海の見えるシアタールーム」はソコンを利用して営業報の夕方には親子連れがハンバーグやソフトクリームをほお張りながら、大型画面で映画観賞する。アイバーなど高速大容量通信網を導入したり、プリントアウトサービスなども完備する。一時間の平均単価は五百〜六百円前後。二十四時間営業店も多く、大半が深夜割引パックなどお得なプランを用意している。(流通経済部 吉野真由美)

吉野真由美